



なるみつうしん Vol.7

～新型コロナワクチンについて

令和4年8月

看護師 鈴木瑠衣

新型コロナウイルスが蔓延し、いわゆる「コロナ禍」といわれる状況が始まり2年以上が過ぎました。まだまだ収束する気配もなく、嫌になってしまいますね。本来ならもっと明るい話題を提供したいところですが、今回は小児における新型コロナウイルスとワクチンについて考えていきたいと思います。

国内における5～11歳の新型コロナウイルス症例の大多数は軽症といわれていますが、2022年の1月以降はオミクロン株の流行に伴い、小児の感染者数は増加しています。感染者の増加によりクルーズ症候群や肺炎、けいれん、嘔吐・脱水などの中等症や重症例の数が増えています。

果たして5～11歳のワクチン接種は効果があるのでしょうか？海外では、5～11歳の小児に対する同ワクチンの発症予防効果は当初90%以上と報告され、重症な病型である小児多系統炎症性症候群に対する予防効果も報告されていました。流行株がオミクロン株に変わってから感染予防効果は31%、発症予防効果は51%と低下していますが、入院予防効果は74%と報告されています。日本小児科学会は「5～11歳の健康な子どもへのワクチン接種は12歳以上の健康な子どもへのワクチン接種と同様に意義があるとかんがえています」と発表しています。

我が仙台市での新型コロナワクチンの接種率を見てみると、5～11歳の接種率は1回目が20.5%、2回目18.8%となっており（2022年8月3日時点）、他の年代と比べても接種率がかなり低いのが現状です。

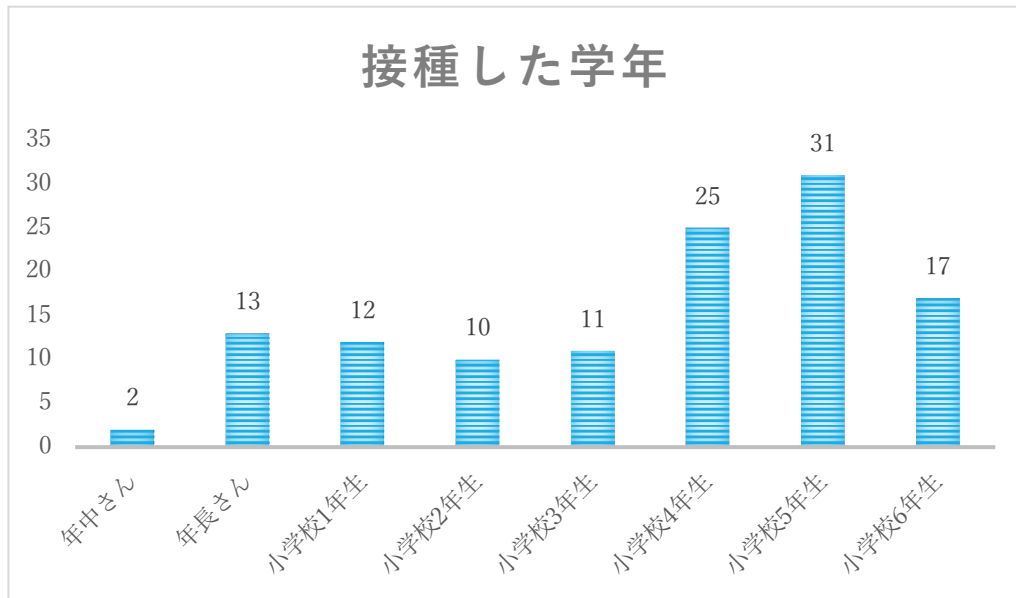
小児の感染者が増加している中、お子さんのワクチン接種を迷われている方はたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。接種を迷う要因の1つとして、副反応が考えられます。そこで、当院では新型コロナワクチンの副反応についてのアンケート調査を行ってみました！

結果は以下のグラフに示します。アンケートは今年3月から7月までに2回目の接種を終えた方が対象で、121名の方に回答していただきました。まず接種した学年ですが、小学校5年生が一番多くその次が4年生でした。6年生の中には「小児用が打てる年齢のうちにワクチンを打ちたかった」「修学旅行に行く前に打ちたかった」などの意見が聞かれました。そして副反応に関してですが、大人と同様に1回目より2回目に様々な症状の訴えが聞かれました。しかし、1回目も2回目も重篤な副反応を訴える方はいらっしゃいませんでした。アメリカでは2回目接種後の局所反応が57.5%、全身反応が40.9%に認められ、発熱は1回目接種後7.9%、2回目接種後13.4%に認められたというデータがあります。当院の調査でも発熱した方の割合は1回目4%、2回目13%でした。発熱に関しては、接種後の感想を見ても一時的で長く続くものではなかった方が多いようです。そして、副反応は特になしと答えた方の割合は1回目が39%、2回目が31%であり、「副反応がなく拍子抜けした」との意見もありました。副反応を心配して接種を悩まれている方にとっては、この数字や意見は安心材料になるのではないのでしょうか。

このアンケート結果が、皆さんのワクチン接種に関する選択の一助となれば幸いです。

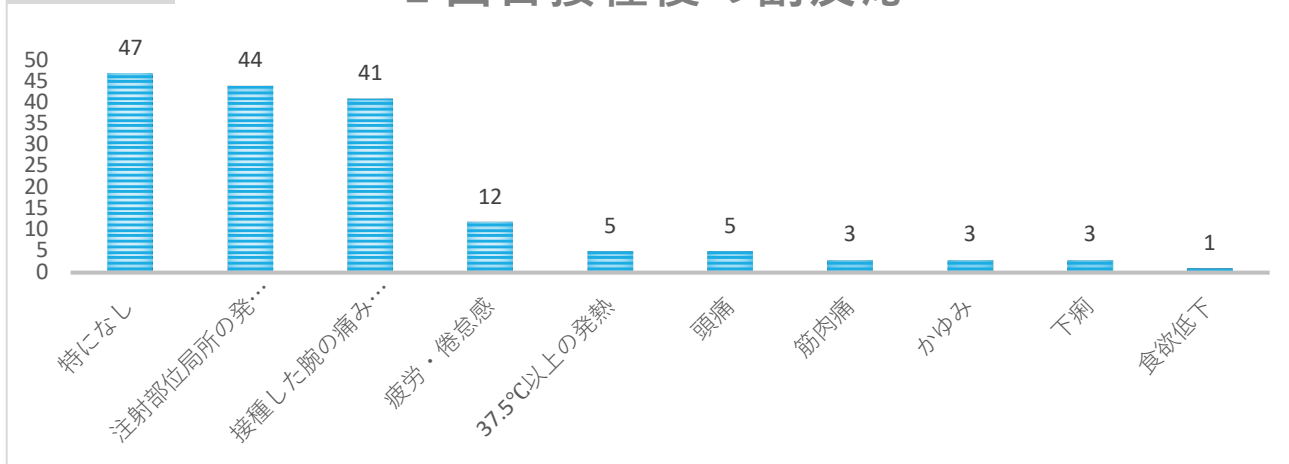
最後に、アンケートにご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

回答合計 121 名



回答合計 121 名
重複回答あり

1回目接種後の副反応



回答合計 121 名
重複回答あり

2回目接種後の副反応

